

## 令和7年度 学生FD CHAmMiT 学部で対応可能な意見に対する報告書

## 学生意見の集約

実施日	実施内容
令和7年6月28日	<p>【具体的な実施方法】 学生及び教職員によるグループディスカッション</p> <p>【参加学生（学科・学年・氏名）】 写真学科・1年・櫻井太郎 他19名（大学院生を含む）</p>

## 学部で対応可能な意見

※学生FD CHAmMiT当日、以下の内容を基に、参加学生からご説明いただきます。

学生からの意見（学部・学科の問題）	対応済	対応中	問題解決のプロセス
<p>1</p> <p>【意見】 授業計画（シラバス）やカリキュラムについて、公開されている内容を踏まえて授業を行ってほしい。また、履修を検討する際に役立つツールが欲しい。</p> <p>【理由・経緯】 公開されている内容と異なる授業をやっていたり、変更する際も丁寧な説明が不足していると思えるため。また、どのような先生が担当しているのかも選択する際の大切な要素なので、授業紹介動画を配信するなどの取り組みを行ってほしい。</p>			<p>○</p> <p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 授業があらかじめ公開されたシラバスやカリキュラムの内容に従って展開されることで学生が履修前に当該授業の全体像をイメージしやすくなり、どの授業を履修するか の選択肢が増えるとともに、どのように学習に取り組むべきかの見通しを持つことができる。正確な授業展開は学生が履修しやすい環境を生み、意欲的に授業に取り組む ことにつながり、必要な学びを得ることが可能となる。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 シラバスに授業紹介動画を貼ることで文字だけでは伝わらない教員の雰囲気などがわかる ようにする。また、シラバスの記載内容に変更が生じた場合は、Google Classroomなどを用いて具体的な変更内容を記載したPDFやスプレッドシートで周知 するとともに、修正履歴についても掲出する。昨年度も同じ講義を担当した教員は、 昨年度の講義内容を掲載する。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 教員の負担が大きくなる。また、授業紹介動画を配信する場合、公開の範囲やデータの 格納場所をどこにするかといった問題とともに、シラバスも含めてそもそも学生が 目を通さなくてはこれらの工夫も意味をなさない。また、全教員に動画制作を義務化 することは現状では難しいので、動画や音声データなどの活用を推奨することから拡 げていくことが必要。</p>
<p>2</p> <p>【意見】 より柔軟に履修登録をできるようにしてほしい。</p> <p>【理由・経緯】 履修登録期間が短い上に、第1回の授業を受けていないと登録不可の授業もある。せめて、受けられない場合のために 第1回の授業を録画視聴できるようにするなどの対応が欲しいと感じるため。</p>			<p>○</p> <p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 履修登録に柔軟性を持たせることで、履修を考える授業を実際に受講し、履修登録を 行うかを決定することが可能となり、時間割の選択肢が増えることで、より自分が受 講したい授業が受けやすくなるなど、余裕を持って学生が履修について検討するこ とが可能となる。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 履修登録期間を早める。授業内容についての説明動画や第1回授業の動画を授業開講 前からNUアカウント限定配信のYouTubeなどでオンデマンド配信する。履修に当た り第1回目授業参加必須といった縛りをなくす。 FD委員会及び学務委員会で検討していく。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 履修登録期間を早めることで事務作業が煩雑になり、教員の負担も大きくなる。ま た、積極的に1回目の授業に参加する学生が少なくなる可能性がある。</p>
<p>3</p> <p>【意見】 学習スペースや課題・作品など物を保管する場所が足りない。また、キャンパス や設備の開放時間を延長してほしい。</p> <p>【理由・経緯】 キャンパス内に学習スペースとして自由に使用できる場所が少ないし、できれば 24時間勉強できるように整備してほしい。また、作品制作の締切前などに 大学の閉まる時間が21時までだと十分に制作に集中できないため。</p>			<p>○</p> <p>【①問題を解決することで良くなったこと・良くなると見込まれること】 学習スペースなどを増やすことで、大学施設が借用できない、大きな資材、道具を 持って通学しなくてもいいといった活動上の制限を低減できる。また学習スペースの 解放時間を延長することで学生がより長い時間学ぶことが可能となり、その結果とし て教育の質の向上が見込まれる。また、自習を行うなど空きコマの有効活用や、静か なところでオンライン授業を受けることも可能。</p> <p>【②問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】 実技や実習で使用するスペースや図書館、トレーニングジムを含め大学施設の使用可 能時間を延ばす。授業などが行われていない教室について、所沢校舎も含め有効活用 する。教室の稼働状況を確認できる媒体があればなおよい。</p> <p>【③問題を解決するにあたっての課題・ハードル】 施設管理のための光熱費や人件費の高騰に加え、夜間開放による校内の治安維持をど うするかについて具体的検討が必要である。</p>

## 令和7年度 学生FD CHAmmiT 学部で対応可能な意見に対する報告書

## 学生FD CHAmmiT（令和7年9月14日(日)開催）後に改善した意見

学生からの意見（学部・学科の問題点）		改善内容
1	授業計画（シラバス）やカリキュラムについて、公開されている内容を踏まえて授業を行ってほしい。また、履修を検討する際に役立つツールが欲しい。	シラバスを作成する際は、授業計画の内容をより具体的に記入することに加え、その記載内容に基づいて授業運営をするよう引き続き教員に注意喚起していく。 また、履修を検討する際に役立つ学部共通のツールの導入に関しては、引き続き検討を継続していく。
2	より柔軟に履修登録をできるようにしてほしい。	令和8年度は履修登録期間について、学務委員会を中心に、時期等の見直しについて具体的な検討を行う。
3	学習スペースや課題・作品など物を保管する場所が足りない。また、キャンパスや設備の開放時間を延長してほしい。	現在、自習室やフリースペースとして使用可能な教室等に関する情報のお知らせ方法を検討し、学生への周知を強化していく。

## 令和7年度 学生FD CHAmmit 全学に対する提案書

## 全学に対する意見（他学部あるいは本部の協力が必要な意見）

※学生FD CHAmmit当日、以下の内容を基に、参加学生からご説明いただきます。

学生からの意見	問題解決のプロセス
<p>1</p> <p><b>【意見】</b> 障害を持つ学生が留学しやすくなるようサポート体制を整えてもらいたい。</p> <p><b>【理由・経緯】</b> そのサポート体制が十分に整っていると感じられないため。</p>	<p><b>【①問題を解決することで良くなると見込まれること】</b> 障害を理由に留学する機会を失わず挑戦出来ることは、障害をもつ学生にとっても貴重な学修機会となる。留学を通して国内外の情勢に触れることでSDGsの掲げる「教育におけるジェンダー格差をなくし、障害者、先住民、弱い立場にある子どもたちがあらゆる教育の機会に平等にアクセスできるようにする」の達成に繋がる。</p> <p><b>【②協力が必要な学部等】</b> 本部，全学部</p> <p><b>【③問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】</b> 障害のある学生が海外留学を実現する為には、留学先の大学やプログラムについて情報をしっかりと収集し受け入れ体制の有無などを総合的に判断する必要がある。 また、障害をもつ学生が留学した事例を集めるなど、大学内の支援室と留学を取り扱う部署の連携強化が必要不可欠である。大学全体で障害学生の留学支援に向けた研修を教職員向けに行うなど、知識や支援に向けた意識向上を推進していく。</p> <p><b>【④対応策（※本部使用欄）】</b></p>
<p>2</p> <p><b>【意見】</b> 授業に必要な教材(教科書等)や図書館の資料,大学の発行物など、紙媒体全般のデジタル化を推進してもらいたい。</p> <p><b>【理由・経緯】</b> 情報へのアクセスをより便利にってもらいたいし、環境保全のためにもペーパーレス化をさらに進めてもらいたいと感じるため。</p>	<p><b>【①問題を解決することで良くなると見込まれること】</b> 著作権に配慮する必要があるが、大学で所有する資料や過去の卒業論文や卒業制作等についてデジタルデバイスによる閲覧が可能になれば、場所や時間にとらわれず学修することが可能となる。</p> <p><b>【②協力が必要な学部等】</b> 本部，全学部</p> <p><b>【③問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】</b> 資料のデジタル化に際し、著作権の管理や閲覧・ダウンロード等のルールの整備が必要となる。また、卒業論文や卒業制作などのデータベース化には著作権本人の許諾を得る必要がある為、中長期的な準備が必要であるし、資金面での課題もある。</p> <p><b>【④対応策（※本部使用欄）】</b></p>
<p>3</p> <p><b>【意見】</b> 授業の相互履修の拡大や他学部との交流の機会を増やしてもらいたい。</p> <p><b>【理由・経緯】</b> 多くの学部を有する日本大学に入学したのに、所属学部以外のことを知ったり、学生同士が交流する機会が少なく、大学のスケールメリットを活かせていないと感じるため。</p>	<p><b>【①問題を解決することで良くなると見込まれること】</b> 日本大学のスケールメリットを最大限に活かすことが可能となり、専攻分野の異なる様々な価値観をもつ人と関わることで、新たな視点や価値観を身につけることが出来る。</p> <p><b>【②協力が必要な学部等】</b> 本部，全学部</p> <p><b>【③問題を解決するための具体的な方法・必要な資源（ヒト・モノ・情報）など】</b> 日本大学の各学部同士の交流を活発化させる為に、日本大学全体としての年間行事を実施する。授業に関する取り組みとして、相互履修制度や学部間連携授業などをより積極的に設定する。それと同時に相互履修の制度そのものについてや、対象科目の周知強化のためのプラットフォームを作成することが効果的と思われる。その他、他学部の授業を聴講できるような仕組みが導入できれば、他の学問領域を知る機会の増加並びに全学の学生間交流の活発化が見込まれる。 また、現在、初年次教育科目として実施している自主創造の基礎やワールドカフェの様なグループワークやコミュニケーションを軸とした科目をさらに発展させ、2年次以降も対象とした社会問題を取り上げる演習科目の新設など、初年次に留まらず継続的に全学の学生間交流の機会を確保することで、日本大学が持つスケールメリットを生かした多様な価値観と新しい知を共有する経験を積むことができる。</p> <p><b>【④対応策（※本部使用欄）】</b></p>